

子さん「現在松下さん」。他に吉田さんもおられました。

忘れましたが昭和九年頃でしたか室戸台風の時、丁度金子様、安東様が東京から神戸へ帰られる時瀬田川の鉄橋の上で台風に遭遇され列車が上り線の方に転後しました。会社では一同大騒ぎになり東京へ電話をしたり大阪支店に電話をいれたりとても大変な事でしたがその最中に金子が頭に包帯をさられ安東さんも指から血を流しながら靴を片方ぶらさげられタクシード帰って来られました。一同無事を喜びました。すぐ花隈の隈病院に入院されました。後日天皇陛下からお見舞いの御下賜金が届いていました。お金は知りませんが包紙にか、っていた青い玉虫色の水引の色がいまでも目に浮かびます。金子様が無事にお帰りになった事は本当に嬉しい事でした。

他に嬉しかった事は会社の人達全員で四国の金比羅さんにお詣りにいって淡路島や鳴門の観潮などした事です。又秋には全員で唐戸へ松茸狩にいった事など思出します。私は昭和十三年三月会社をや

めました。五月お家様がお亡くなりになりましたので会社より

応援をたのまれ来客のお茶のお接待の電話の交換のお手伝いをしました。又鈴木家の御本家からは社員の妻にいつて別染の鈴木家の栝の紋のはいったねずみ色の羽二重の反物をいただきました。お葬式の時その着物を着まして出席させていただきました。

五十年前の昔の事ながら思い出すままこんな拙ない文章をかきつづりました。昭和十三年八月主人共に金子様のお勧めにて、(當時は東北チタンと言っていました)仙台チタン工場へ勤める事になりました。栄町時代はこれで終りましてこれからの二十六年仙台にすこし次は伊予工場で十八年本当に長い年月鈴木にお世話になりました。主人などもっと前の関東大震災から鈴木にお世話になっております。本当に有難う御座居ました。

私ももう八十にそろそろ手のとどく年になりました。金子様の思出もかきたいと思っております。平成五年正月これにて筆をおきます。

辰巳会便り

助野 敦子

前略

助野文字(九十四才)七月二十六日天寿を全ういたしました。長き厚誼感謝申し上げます。

柳田 祥三

寒中お見舞い申し上げます。父・義一への新年のご挨拶状を毎年いただきながら、世話するもの不精でここ数年失礼いたしております。父は現在、甲山の麓にあるアガベ山病院にて静養いたしております。その病院の手厚い看護のおかげで、数年前の元気を取り戻し、頭もしっかりとして、訪ねる度にその食欲の旺盛なことに驚いています。父の希望で嗜好品を与え過ぎの時があり、病院か

らお叱りをいただくこともある程です。看護される方の中に、スイスカラの若人がいるためでしょうか、入れ歯なしの状態ですが、会話に英単語が出ることもあり、看護される方から微笑みが出る程です。右は父が自宅で過ごしたこの正月、ブラジルからの若い二人の親戚を交えた時のスナックです。なお、病院では、偶然にも小生の関西学院中・高等部の友人である川村卓一君の手厚い看護を受けていたことを知り、その大いなる幸いに家族一同深く感謝している次第です。

皆様のご多幸を祈りつつ、父・義一へのご厚誼に深く感謝申し上げます。いつもお世話になり、有難うございます。

竹脇 元子

秋めいて参りました。御辰巳会様におかれましては

益々御発展にておめでとう存じます。

平素「御誌たつみ」を拝読させていただいておりました、竹内美代が去る十月二十三日急性心不全で他界いたしました。

生前数々御心配を賜りましたこと有難く厚く御礼を申し上げます。右、お知らせと共によりしくお願い申し上げます。なお故人は亡竹内虎雄の妻で竹内美代、住所は長岡京市緑が丘六一一六でした。

岡田 静子

朝夕は冷え冷えとして紅葉美しいころとなりました。「たつみ」

五十六号十月二十九日拝受いたしました。表紙金子貞子様の秋海棠のやさしい絵をしみじみと拝見いたしました。

平成四年度辰巳会全国大会の御一同様のお元気な御様子まことに御目出度く存じ上げます。寒さに

向かいますので皆様ますますお元気にお過ごし遊ばされます様念願いたします。先はお受け御礼まで
かしこ
十月三十日

越智 栄

日頃御無沙汰に打過ぎて居ります。

この度又「たつみ」第五十六号を御送付頂きましたことには有難く御受致しました。有難く厚く御礼申し上げます。

本年も早残り少なくなりました。何卒、これからの年月もお健やかに御繁栄お祈り上げます。
かしこ
十月二十九日

小林 俊夫

秋も深くなりました。本日「たつみ」五十六号拝受致しました。



ありがとうございます。
いつも乍ら編集部の方々の御苦
勞の程深く御礼申し上げます。

十月二十八日

唐戸 登美

秋晴れのさわやかな季節となり
ました。皆様にはお変わり御座いま
せんか。たつみ誌五六号を有難う
ございました。毎号頂きます度に
若い日の事を思い出し、私の生き
の内の宝とっております。十月
二十七日～二十九日「ほうきだ
いせん」(中国地方)を見て参り、
エネギッシュな山に感動して帰
りました。

青柳 節子

前略
「たつみ」のお礼状を書き終つ

北野 浅美

拝啓
冬に入りました。皆様お元気に
て何よりお喜び申し上げます。
「たつみ」五十六号お送り下さ
いまして懐かしく頁を繰らして頂
きました。有難うございました。
御承知の如く私共のサクラビ
ルはもうございませんで親会社
の辰巳会の会合にお招きを頂いて
その愛着を自ら慰めている次第で
す。健康の許す限り大会に参加さ
せて頂きますのでよろしく御願
い申し上げます。
末筆乍ら皆様の御健康を切に祈
ります。

平成四年十一月八日

武内 雪恵

年を取りまして辰巳会による出席
致しませずお恥ずかしいですが、
句をおとどけ申します。

てサテ、ゆつくりと…と開きトタ
ンに眼に入ったのが桂先生の悲報。
少しも知りませんでした。

先生は父の命が今しも消える時、
必死に鈴木商店の行方を探してい
た時の燈台の光でした。

「コッチコッチ」と教えて下
さった方でした。神戸で鈴木会長
に引き合わせて下さり、「天ぶら」
を皆様に御馳走になり、バトン
タッチが出来たのも先生の温かい
御尽力のおかげでした。ナント
あつけないものです。御冥福をお
祈り申し上げます。 草々

河野 美榮

前略ごめん下さいませ。
父鈴木丸衛の生涯誇りとし愛し
ておりました御社の会誌「たつ
み」五十六号をまた此の度もお送
り頂き誠に有難く厚く御礼申し上
げます。
皆様の御旅行のお写真拝見致し、
父も高齢で随分御同行の皆様にお

お寒うなりますので皆様お身体お
大切に過ごして下さいませ

俳句

武内 雪恵

新しき遊具のありてアキツ飛ぶ
射干の終りの花の一二本
村人の寄進の幟秋祭
山隔て花火の音も聞かざりし
役終えし案山子稿らひ持ち帰る
仏桑花医者之の玄関華やげり
稲妻と名あり紫花菖蒲

いつもお返事がおそくなりまし
て申訳ありません。

迷惑をおかけする年まで楽しみに、
亡き母と参加させて頂きましたこ
と思ひ出し感無量でございます。

本年十月は父の十三回忌でござ
いまして、没後このように永い間
私にまで御誌お送り賜り有難く早
速仏前に報告、供えさせて頂きま
した。重ねて心より厚く御礼申し
上げますと共に御会のますますの
御発展をお祈り申し上げます。
再びは歩む無き大地赤坂に社屋
懐しめば父支え来ぬ
(昭和五十五年)

亡き父の最後の歩み懐かしむ社
屋に支え来し赤坂に今宵クラス会
(平成四年)十月三十日
追伸

会費もお納め致しておりません
ので申しわけなく、もう十三回忌
にもなりますので、どうぞこのあ
たりで御放念頂きますよう感謝と
共にお願い申し上げます。

山口 歌子

前略
紅葉の美しい季節を迎えました。
皆様には御健やかに御過ごし
事と御喜び申し上げます。

夫山口義雄は去る八月一日急逝
致しましたので御知らせ致します。
「鈴木商店を退社してから六十
年以上経ちましたのに何時も御交
わりの輪の中に加えて頂き山口は
とても楽しみにしておりました。
函館時代の先輩柘山様、嶋内様の
奥様とは今でもおつき合いをさせ
て頂いております。

永い間の御交誼本当に有難う御
座いました。

この度届きました「たつみ」五
十六号を早速霊前にお供えさせて
頂きました。
皆さまの御多幸を心からお祈り
申し上げます。 かしこ
十月三十日

物 故 者 名 簿

平成4年1月～12月

御 芳 名	死 亡 年 月 日	享 年	最 終 勤 務 先
八川 栄吉	昭和60年10月11日	94才	造船部・鳥羽造船所
今村 豊太郎	平成3年9月14日	88才	故今村頼吉氏子息
居長 龍芳	〃 11月17日	88才	(株)神戸製鋼所
桂 芳男	平成4年1月14日	62才	神戸大学名誉教授
上田 孝子	〃 2月6日		故上田五郎氏夫人
橋本 重亮	〃 2月26日	89才	故橋本隆正氏夫人
荒木 之吉	〃 4月30日	89才	造船部・(株)浪華倉庫
宮田 辨吉	〃 4月8日	89才	大阪支店
松江 邦雄	〃 5月21日	94才	
山本 濱一	〃 7月21日	90才	横浜支店・本店船舶部
助野 文義	〃 7月26日	94才	故助野俊三氏夫人
山口 義一	〃 8月1日	87才	函館支店
武井 山一	〃 8月13日	88才	
大井 畔登	〃 9月4日	89才	天満織物(株)所
中松 村内	〃 9月9日	88才	天神戸製鋼
嶋内 桃美	〃 9月29日	90才	さくらビール
竹内 内崎	〃 10月4日		故嶋内義治氏夫人
竹内 内崎	〃 10月23日		故竹内虎雄氏夫人
竹内 内崎	〃 10月31日	98才	故台北支店